

とおやすこうぎょう ほ しゅうがっこうかんけい し りょう  
遠安工業補習学校関係資料

<概要>

員 数 一括 (44 件)  
時 代 明治時代

実業補習学校は、1890 (明治 23) 年の「小学校令」<sup>(※1)</sup>改正、1893 (明治 26) 年の「実業補習学校規程」<sup>(※2)</sup>公布に基づき、小学校の一種として全国的に設置された学校で、工業・農業・水産・商業・商船の各補習学校があった。

遠安工業補習学校は、七宝工の養成を目的として、1894 (明治 27) 年、宝村遠島 (現あま市七宝町遠島) に設立された、日本で最初の工業補習学校である。なお、「遠安」の名は七宝業の盛んな地区である「遠島」と「安松」<sup>やすまつ</sup> (現あま市七宝町安松) から 1 字ずつとったものである。

本資料は、行政文書 42 件と、学校日誌 2 件に大きく分けられる。

行政文書は、あま市に伝わる、旧宝村役場の行政文書に含まれるものである。大部分が予算決算書及びその認可書であり、生徒数の変化の状況などを把握することができる。また、「学校規則」では、設立の目的や教育課程などを知ることができる。

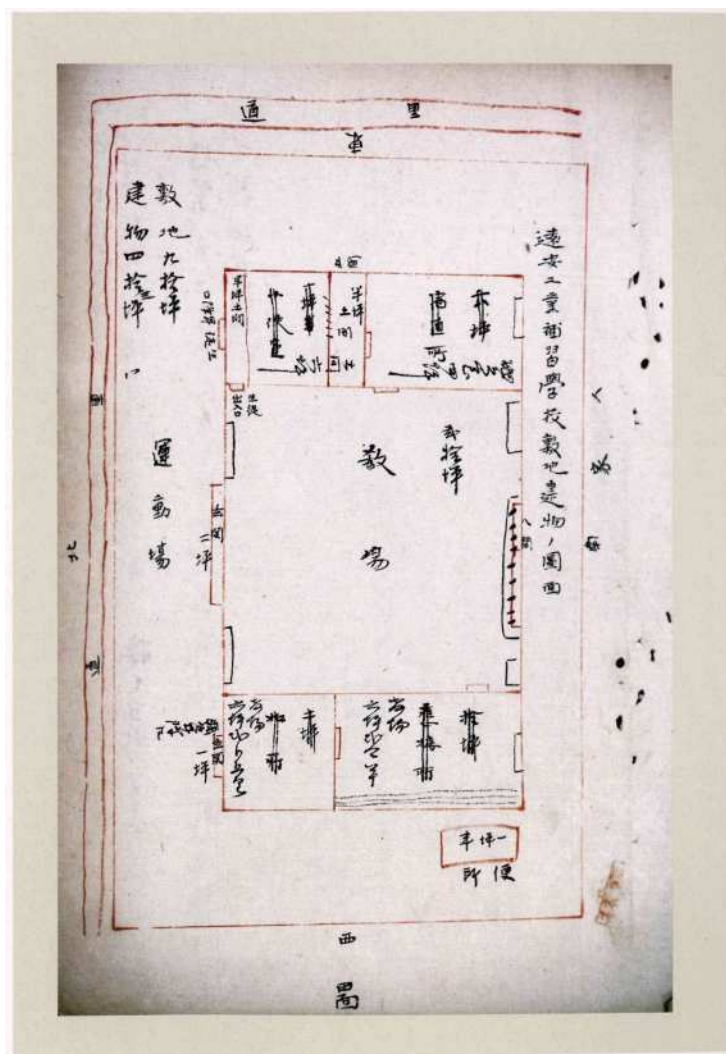
学校日誌は、遠島の七宝工であった林小傳治<sup>はやし こでんじ</sup><sup>(※3)</sup>家に伝わったもので、1902 (明治 35) 年度と 1905 (明治 38) 年度の 2 年度分である。日々の出席者数や行事などの様子を知ることができる。

遠安工業補習学校は、1905 (明治 38) 年をもって閉校したと考えられているが、明治 20 年代後半から 30 年代にかけての尾張七宝の興隆期に、七宝工の養成に寄与したと思われる。本資料は、七宝工の養成を企図した遠安工業補習学校の実態を知ることができる貴重な資料である。

<sup>(※1)</sup> 小学校令 1886 年公布の第一次小学校令、1890 年公布の第二次小学校令、1900 年公布の第三次小学校令がある。第二次小学校令において、実業補習学校が小学校の種類として定められた。

<sup>(※2)</sup> 実業補習学校規程 1893 年に文部省令により公布された、実業補習学校に関する細則。入学資格を尋常小学校卒業程度、修業年限を 3 年以内とし、科目は修身・読書・習字・算術・実業とした。

<sup>(※3)</sup> 林 小傳治 1831 年生まれー1915 年没。幕末期に初めて七宝製品の輸出に取り組んだと伝えられる。



実業補習学校校舍変更之義ニ付稟請（校舍変更許可願）（部分）

1899年8月3日付、愛知県海東郡宝村長 林傳十郎発、文部大臣伯爵 樺山資紀宛

（画像部分）27.2cm×19.2cm あま市七宝焼アートヴィレッジ収蔵



明治35（1902）年度・明治38（1905）年度 遠安工業補習学校 日誌 表紙

（左）28.2cm×20.0cm、（右）26.5cm×19.0cm あま市七宝焼アートヴィレッジ収蔵